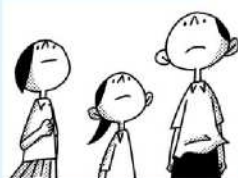


## 《今週の特集棚

平成26年  
3月7日～  
3月13日まで



# あの日から、3年

## 東日本大震災関連本

このリストは「さまざまな立場から見た大震災」をテーマに本を選び、作成しました。



請求記号	書名	著者名	出版者	あらすじ
1 024.12/イ/	復興の書店	稲泉 連/著	小学館	苦難を乗り越えて開店した多くの店舗で、活字に飢えているとしか言いようのない人々の姿が目撃された。被災地における書店の「歩み」を記録することで、昨今の出版界における、紙の書籍の「尊さ」を再発見していく。
2 318.22/トハ/	がんばっぺし！ぺしぺしぺし！ 陸前高田市市長が綴る“復興を支える仲間”との 732日	戸羽 太/著	大和出版	折れない、負けない、あきらめない。被災地である陸前高田市の市長が、復興を支えてくれる仲間たち、復興の現状と課題、これからのまちづくりについて綴る。
3 344.1/フク/	国家のシロアリ 復興予算流用の真相	福場 ひとみ/著	小学館	復興予算19兆円を奪ったのは誰だ！なぜ復興予算が霞が関の庁舎や沖縄の道路に使われたのか？復興予算流用問題を徹底検証した 小学館ノンフィクション賞優秀賞受賞作。
4 369.31/アカ/	笑う、避難所 石巻・明友館136人の記録	頓所 直人/取材・文	集英社	大津波を逃れて人々が集まった明友館。この自主避難所は、いつしか在宅避難者や児童施設に救援物資を届ける「支援する避難所」に役割を変える。宮城県石巻市不動町の奇跡の避難所に長期密着したルポ。
5 369.31/イケ/	あのとき、大川小学校で何が起きたのか	池上 正樹/文 加藤 順子/文・写真	青志社	3・11の津波で多くの犠牲者を出した宮城県石巻市立大川小学校。これまでひた隠しにされてきた、避難を開始するまでの「空白の51分」を、資料開示請求から得た新事実と、行政・遺族双方への取材で明らかにする。
6 369.31/イシ/	遺体 震災、津波の果てに	石井 光太/著	新潮社	震災後、各施設を瞬く間に埋め尽くす、圧倒的な数の遺体。生き延びた者は、膨大な数の死者を前に、立ち止まることすら許されなかった。遺体安置所をめぐる極限状態に迫った、壮絶なルポルタージュ。

請求記号	書名	著者名	出版者	あらすじ
7 369.31/イ+	命をつないだ道 東北・国道45号線をゆく	稲泉 連/著	新潮社	震災直後、瓦礫や土砂で塞がれた東北の大動脈・国道45号線は、わずか1週間で復旧した。それを可能にしたのは、国土交通省、自衛隊、地元住民の強い意志と覚悟だった。早期復旧にかけた人々の熱き物語を描く。
8 369.31/オザ/	汐凧を捜して 原発の町大熊の3・11	尾崎 孝史/著	かもがわ出版	「娘が最後どんなだったのか、それを知りたくて」。原発事故により全町避難を強いられ、捜索を続けることが許されなかった木村さんの娘・汐凧ちゃんは行方不明のまま。あの日の出来事を、町の人々の証言で綴る。
9 369.31/カサ/	僕はしゃべるためにここへ来た	笠井 信輔/著	産経新聞出版	言葉にしなければならない。僕はしゃべるために、被災地に来たのだから…。情報番組「とくダネ!」取材班の一人として被災地へ入ったリポーター笠井信輔が、テレビ報道の裏側、震災報道の真実を綴る。
10 369.31/カホ/	河北新報のいちばん長い日 震災下の地元紙	河北新報社編集局/ 著	筑摩書房	津波に吞まれて九死に一生を得た総局長、殉職した販売店主、倒壊した組版システム…。東日本大震災で、自らも被災しながら報道を続ける東北の地元紙『河北新報』の全記録。2011年度新聞協会賞受賞作。
11 369.31/クサ/	3・11を心に刻むブックガイド	草谷 桂子/著	子どもの未来社	東日本大震災後、人々が負った深い傷から血がふき出るように、数々の本が出版された。子どもの本を中心とした3・11に関連する本300冊を紹介する。
12 369.31/コタ/	東日本大震災緊急災害対策本部の90日 政府の初動・応急対応はいかになされたか	小滝 晃/著	ぎょうせい	東日本大震災の発災当時、内閣府(防災担当)総括参事官だった著者が、緊急災害対策本部の対応経過や、復興対策本部の発足までの政府の応急対応などを述べ、東日本大震災の意味や教訓を考察する。
13 369.31/サイ/	人を助けるすんごい仕組み ボランティア経験のない僕が、日本最大級の支援 組織をどうつくったのか	西條 剛央/著	ダイヤモンド社	ボランティア経験なしの早稲田大学院専任講師が、日本最大級の支援組織「ふんばろう東日本支援プロジェクト」をどうやってつくったのか? 代表をつとめる著者が、人を助ける仕組みと支援の舞台裏をはじめて明かす。
14 369.31/サン/	津波からの生還 東日本大震災・石巻地方100人の証言	三陸河北新報社「石 巻かほく」編集局/ 編	旬報社	巨大な波に翻弄されたあの日、何が生死をわけたのか。東日本大震災の被災者のインタビューによって、津波の真実を明らかにする。沿岸部各地の被災前と被災後がわかる航空写真も収録。

	請求記号	書名	著者名	出版者	あらすじ
15	369.31/シユ/	ともしび 被災者から見た被災地の記録	シュープレス/編・著	小学館	家族を失っても捜索活動に暮れる消防士、疎開した息子と福島に残った母との往復書簡、避難所の小学生が作る「ファイト新聞」…。地元密着の地方紙が伝えた“東北人の3月11日”。
16	369.31/スタ/	海と、がれきと、ボールと、絆。	スタンダード編集部/編著	講談社	2011年3月11日の東日本大震災で、津波によって家をなくし、親や家族、友人らを失った東北の高校生アスリートたちが、スポーツを通して少しずつ“日常”を取り戻していく姿を描いたスポーツノンフィクション。
17	369.31/チユ/	備える！3・11から	中日新聞社会部/編著	中日新聞社	未曾有の大災害が中部地方を襲った場合、どういった行動を取るべきか。地域として何をすべきか。あらゆる角度から防災・減災を検証し、そのための備えを提言する。
18	369.31/テラ/	東日本大震災 希望の種をまく人びと	寺島 英弥/著	明石書店	震災から2年。いまだ先行きの見えない復興と多くの困難を抱える被災者。被災者と共に生きるジャーナリストが、たとえ小さくとも確かに芽生えつつある再起と復興の兆候を追いかける。丹念な取材で綴った震災2年目の記録。
19	369.31/ニツ/	ひとりじゃない ドキュメント震災遺児	NHK取材班/編著	NHK出版	震災によって、父や母を失った子どもは1700人を超えた。震災発生から1年半、震災遺児の置かれた厳しい現実を被災地から伝える。また、心のケアに取り組む専門家の提言を収載し、震災遺児が希望を持てる社会のあり方についても考える。
20	369.31/フジ/	ボランティア僧侶 東日本大震災被災地の声を聴く	藤丸 智雄/著	同文館出版	なぜ、あの人は死んだのだろうか？どうして、私が生き残ったのだろうか？東日本大震災の被災地に残る言葉にならない声を聴く。2011年8月から始まった2人の僧侶による「仮設住宅訪問活動」の記録。
21	369.31/モリ/	つなみ 被災地の子どもたちの作文集	森 健/著	文藝春秋	宮城・岩手・福島の115人の子どもたちが刻みつけた3・11の記憶。つなみの被災地となった宮城・岩手の子どもたちの作文集「つなみ」に、いまま原発事故に苦しむ福島の子どもの作文を加えた完全版。
22	369.31/ヱミ/	記者は何を見たのか 3・11東日本大震災	読売新聞社/編著	中央公論新社	被災者の話を聞き号泣した記者がいた、歯を食いしばってシャッターを切ったカメラマンがいた…。東日本大震災の取材にあたった読売新聞記者78人が、現地で何を見て、いかに感じ、何を考えたのかを綴った体験記。

	請求記号	書名	著者名	出版者	あらすじ
23	374.92/カタ/	命を守る教育 3.11釜石からの教訓	片田 敏孝/著	PHP研究所	学校は水没、街は壊滅という状況で、市内14の小中学校の児童・生徒約3000名のほぼ全員が助かった釜石市では、どのような津波防災教育を行ってきたのか。2004年から始まった同市の取り組みを振り返る。
24	392.1/スキ/	兵士は起つ 自衛隊史上最大の作戦	杉山 隆男/著	新潮社	津波に呑まれながらも濁流の中を自力で泳ぎ、人々を救助した隊員たちがいた! 自らの家族の安否も確認できぬままの災害派遣、遺体と向き合う日々、そして原発処理…。大震災下の自衛隊員たちの緊迫と感動のルポ。
25	492.91/イシ/	幸せをつくる、ナースの私にできること 3・11東日本大震災看護師3770人を被災地へ	石井 美恵子/著	廣済堂出版	被災者たちの健康と生活を支えたのは、全国から集まったナースたちだった。限られた資源、危機迫る状況の中で最高の結果を出す、災害現場のプロの仕事とは? 災害看護のプロだからこそ見えてくる大震災の現実を書いた、被災地奮闘記。
26	493.93/シイ/	がれきの中の天使たち 心に傷を負った子どもたちの明日	椎名 篤子/著	集英社	かつて阪神・淡路大震災で、そして今、東日本大震災で、傷ついた子どもたちのために、わが身をかえりみずに力を尽くす児童精神科医たち。子どもの心のケアの現場をレポートした、渾身のノンフィクション。
27	498.89/イシ/	石巻赤十字病院の100日間 東日本大震災医師・看護師・病院職員たちの苦闘の記録	石巻赤十字病院/著 由井 りょう子/著	小学館	簡易ベッドで埋め尽くされたロビー、底をつく水・食料・医薬品、不眠不休の極限状態の中、命のとりでとなった病院スタッフたち…。東日本大震災で救護活動の拠点となった石巻赤十字病院の死闘の日々を追う。
28	498.92/ヤナ/	家族のもとへ、あなたを帰す 東日本大震災犠牲者約1万9000名、歯科医師たちの身元究明	柳原 三佳/著	WAVE出版	東日本大震災の犠牲者のうち、いまだ行方不明者は約3000名。彼らの帰りを待ち続ける家族がいる。現場で遺体に向き合い、身元を確認するための闘いを続けた歯科医師たちの証言記録。
29	543.5/カト/	死の淵を見た男 吉田昌郎と福島第一原発の五〇〇日	門田 隆将/著	PHP研究所	福島第一原発事故の、考えられうる最悪の事態の中で、現場はどう動き、どう闘ったのか。福島第一原発所長として最前線で指揮を執った吉田昌郎のもと、使命感と郷土愛に貫かれて壮絶に闘った人々の物語。
30	596/ハン/	石巻ボランティアハウスの橋本ごはん	橋本 信子/著 INJM/著	セブン&アイ出版	東日本大震災の被災者でありながら、石巻を訪れるボランティアのためにごはんを作る橋本信子。なぜ彼女は作り続けるのか? インタビュー、ボランティアの証言とともに、老若男女をつなぐ特別なレシピを収録する。

	請求記号	書名	著者名	出版者	あらすじ
31	645.6/オオ/	のこされた動物たち 福島第一原発20キロ圏内の記録	太田 康介/著	飛鳥新社	飼い主との再会も、助けられなかった命も…。福島第一原発20キロ圏内で保護活動をするカメラマンが撮りためた、助けを待ち続ける動物たちの記録。
32	673.93/ササ/	おもかげ復元師	笹原 留似子/著	ポプラ社	なきがらに笑顔を戻し、遺族の深い悲しみを生きていく力に変える。東日本大震災後、300人以上をボランティアで復元した女性復元納棺師が、死とは何か、死を見送る現場で何を感じ、伝えてきたのかを綴る。
33	913.6/イト/	想像ラジオ	いとう せいこう/著	河出書房新社	耳を澄ませば、彼らの声が聞こえるはず。ヒロシマ、ナガサキ、トウキョウ、コウベ、トウホク…。生者と死者の新たな関係を描く、鎮魂と再生の物語。
34	913.6/サダ/	風に立つライオン	さだ まさし/著	幻冬舎	1988年、ケニアの戦傷病院で働く日本人医師・航一郎のもとへ少年兵ドゥングが担ぎ込まれた。“心をなくした”彼を航一郎は包み込み、生きる希望を与える。2011年3月、医師となったドゥングは被災地石巻を訪れ…。
35	913.6/シゲ/	希望の地図 3.11から始まる物語	重松 清/著	幻冬舎	いわき、石巻、気仙沼、南三陸、釜石、大船渡、福島、飯舘…。東日本大震災の被災地で出会った人、流した涙、そこで見つけた新たな幸福への道すじ。「震災後」の時代の始まりを描いた物語。
36	E/キム/	はしるってなに	和合 亮一/文 きむら ゆういち/絵	芸術新聞社	あの日の不条理のあと、少年はどのように自分と向き合ったのでしょうか。東日本大震災があつて、ふるさとを離れることになって、それでもいつか帰ることを約束して、頑張ってはしりつづける「ぼく」のお話。
37	E/コミ/	月の貝	名木田 恵子/作 こみね ゆら/絵	佼成出版社	家といっしょに、おかあちゃんも海に連れていかれてしまった6才のえな。えなはもう、海なんか見たくなくて…。震災で失われた多くの命。残された遺族の心のケアを改めて見つめ直した絵本。
38	E/ハセ/	およぐひと	長谷川 集平/作	解放出版社	その人は流れに逆らって泳いでいた。危ないと思った私は「どうしてそんなことをしているのですか?」と防波堤から叫ぶようにして聞いた。するとその人は「うちがあつちなもんですから。早く帰りたいのです」と答え、やがて…。

請求記号	書名	著者名	出版者	あらすじ
39 E/マツ/	ひまわりのおか	ひまわりをうえた八人のお母さんと葉方丹/文 松成 真理子/絵	岩崎書店	震災の津波で74人の命がうばわれた宮城県の小学校。わが子をなくしたお母さんたちは、子どもたちが避難しようとした場所に、ひまわりを植え始めた。8人のお母さんのわが子へ宛てた手紙やお話をもとにした絵本。
40 J015.5/カマ/	走れ！移動図書館 本でよりそう復興支援	鎌倉 幸子/著	筑摩書房	被災者の「心」の回復のために本が必要だ。本の力を信じて、震災直後に立ち上げられた、移動図書館プロジェクト。その活動の始動から現在までを綴る。
41 J369.31/アソ/	前へ！ 東日本大震災と戦った無名戦士たちの記録	麻生 幾/著	新潮社	ゴーグルが曇る為、マスクを外して原発に放水し続けた自衛隊員。遺体と瓦礫で埋まる道を突き進んだ国交省特殊部隊…。命を賭けて黙々と未曾有の危機に対峙した、名もなき戦士たちの壮絶なる記録。
42 J369.36/ヒヨ/	僕たちが見つけた道標 福島の高校生とボランティア大学生の物語	兵藤 智佳/著	晶文社	福島第一原発にほど近い双葉高校。大震災により日常生活が失われ、勉強への不安を抱える高校生に、早稲田大学生がボランティアで学習支援に乗り出した。自分たちの道標を見つけようともがく、等身大の高校生と大学生の物語。
43 J543.5/マイ/	僕のお父さんは東電の社員です 小中学生たちの白熱議論！3・11と働くことの意味	毎日小学生新聞/編	現代書館	「僕のお父さんは東電の社員です」悪いのは東電だけ？ 子どもはどんな責任を持つの？ 全国の小中学生が参加した白熱議論から、日本人の責任と課題、可能性を模索する。
44 K369/ホリ/	命のバトン 津波を生きぬいた奇跡の牛の物語	堀米 薫/著	佼成出版社	大津波が迫る中、生徒だけでなく牛の命も救おうとした宮城県農業高等学校の教師たち。助けられた命は、やがて被災した人たちに大きなはげましを贈った。津波を生きぬいた牛たちと人間との、命をめぐる物語。
45 K374/タニ/	ぼくらの津波てんでんこ	谷本 雄治/著	フレーベル館	あの日、岩手県釜石市の小中学校の児童・生徒たちは、「津波てんでんこ」の教えを忘れず、自分たちの命を守りました。大津波を生きぬいた釜石の子どもたちの“あきらめない心”を伝えるドキュメンタリー。
46 K453/スト/	地震のはなしを聞きに行く 父はなぜ死んだのか	須藤 文音/文	偕成社	東日本大震災の津波で父を失った著者が、「なぜ父が死んだのか」を知るために、地震学、地震考古学、防災学の研究者をたずね、地震についての話を聞く。